

市長選の争点は多選の是非と発電施設か

その他の
質問事項

- ▼認知症初期集中チームの設置について
- ▼県道床尾・大門線の拡幅・改良について

市民派連合
なが た きみ よし
永田 公由



◆小口市長5選出馬表明

問 小口市長の出馬表明を受け、当選すれば5期目となることへの多選批判が選挙戦に大きく影響すると言われているが。

答 一般的に言われている多選の弊害は、私の場合まったくあたらぬものと自負しており、今度の選挙は多選批判への挑戦でもあると考えている。

問 信州FPプロジェクト発電施設の着工が遅れているが、見直しはどうか。

答 平成32年度の商業運転を目指して、まもなくスタートする段階と聞いている。

◆地方創生への取組みは

問 森林活用推進事業の具体的な事業内容は。

答 GISシステムを活用して集約化を促進し森林整備を進めるとともに、市有林の整備を通して、林業事業体を育成していく。また森林塾を開催し

担い手の育成も図りたい。

問 ワインインキュベーション事業の内容は。

答 市内ワイナリーにワイナリー設立希望者の醸造技術研修を委託するもので、市内への小規模ワイナリーの設立を促進するための事業である。

◆平出区の重伝建選定は

問 平成24年から取り組んでいる平出区の重伝建選定はどうなっているか。

答 昨年7月に重伝建地区の決定に必要な不可欠の場所にお住まいの方より、範囲から除外してほしい旨の申し出があった。選定要件を満たさなくなるため、当面選定手続きを見送ることにした。



期待膨らむ小規模ワイナリー

住民が守る農山村地域に力を



新政会
よこざわ えいち
横沢 英一

その他の
質問事項

- ▼北小野地区にも、テレビ松本の放映を
- ▼観光事業も松本広域連合とより連携を

◆農山村部は交通網で活力

問 コンパクトシティ・プラス・ネットワークの活用で今後も農山村地域に住む住民の生活安定に力をいただきたい。

答 塩尻駅と広丘駅周辺を市街地の核としながら、農山村部を含む地域拠点間を、交通ネットワークで結ぶ街づくりを進めており、昨年実施の分析調査でも、市街化調整区域や都市計画区域外の農山村地域では、少子高齢化や人口減少による生活サービスや公共交通サービス低下が予想される。

このような課題解決のため、立地適正化計画による地域公共交通計画や、地域住民の話し合いで作る既存集落型の地区計画により、集落維持を検討していきたい。

◆今後増える認知症対策は

問 団塊の世代が後期高齢者になる2025年には医療費や介護費用の負

担が増えるが、対策は。2025年には、認知症高齢者は、2025年には、認知症高齢者は増加し、市内では3千800人程度と予測されている。4月から中央地域包括支援センター内に認知症を専門とするサポート医と保健師等を配置し、認知症を初期の段階で医療や介護に繋げる支援策を講じる。また平成32年4月には西部圏域を担当する地域包括支援センターを開所するほか、地域密着型の認知症グループホームを3ユニット整備するなど、住み慣れた市内で暮らし続けられるよう進めたい。



農山村部に活性化の施策を